

活動報告——平成二十七年

・葉聖陶と韓寒の心理表現の比較
—方向補語「上」の用法に着目して—
石井 洋美

◇平成二十七年四月二十五日(土)に第三十四回大会を開催した。大会終了後総会を開き、平成二十六年度の会務、会計報告を行った。

・中国伝統演劇を鑑賞して——崑劇を中心に
舟部 淑子

◇同日付で会誌『お茶の水女子大学中国文学会報』第三十四号を発行した。

第三回例会 九月五日
・魚玄機の詩に関する一考察—詩作の原点と創造—
横田むつみ
・介詞“为”“为了”“为着”の意味について
戸沼 市子
・張愛玲の作品における「正面人物」について
朱 珊

——平成二十七年例会記録——

第一回例会(大会) 四月二十五日

・お茶の水女子大学「基礎中国語テキスト」について
伊藤さとみ・馮 曰珍・曹 泰和

第四回例会 十二月十二日

・語学研修実施報告
馮曰珍・曹泰和・伊藤美重子・宮尾正樹

・書く行為、読む行為 宮尾 正樹
第二回例会 七月四日
・敦煌写本『葉浄能詩』について—説話の構造を巡って—
森田さくら

基于两篇小说的分析 譚 昕
・葉石濤と『台湾男子簡阿淘』—歴史を記憶すること—
迫田 博子

卒業論文・修士論文題目

平成二十七年(一九九五年)三月卒業(七名)

王 露 「動詞+アスベクト助詞「了」+数量フレーズ」構造と出来事の主観性との関連性の考察

菊池 瞳 中国帰国者子女の実態と小説『大地の子』との比較〜8人の中国残留邦人三世へのインタビューから〜

北出 真優 「十二国紀」における幻獣の中国古典文献との比較考察〜『山海経』を中心に〜

高梨 美緒 構成からみる日本と中国の笑い〜『笑府』と落語を中心に〜

高橋 桃子 「女部」についての一考察〜『説文解字注』を基に〜

平成二十七年(一九九五年)三月修了(五名)

小島 良佳 九〇後女性文学研究―張晞晗を中心とする二世代間の女性文学比較―

角 祥衣 後漢における情賦の発展と「洛神賦」の成立について

山崎 美奈子 中国語会話文の考察〜語用論の観点から

林 如 中国語における「了」の焦点提示性について

魯 純 中国近代における人力車夫像